

国際調理製菓専門学校

健康給食学科

カリキュラム概要

年間授業進度計画予定表

No.

(1)	教科名	公衆衛生学（食生活と健康）
(2)	対象学年	1 年
(3)	対象学科	シェフ学科・健康給食学科・カフェ学科・調理師学科
(4)	テキスト・教材	新 調理師養成教育全書 必修編 1「食生活と健康」・プリント補足資料

(5)	年間規定時間数	90 時間
(6)	週あたり時間数予定	3 時間
(7)	到達目標	調理師として必要な「食生活と健康」に関する知識・教養の習得
(8)	評価方法	授業の受講態度及び小テスト／期末試験等の成績などにより、総合的に評価

回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	3	【第1章 調理師と健康】 第1章のねらい／ポイント 1 健康の考え方 ① 健康とは何か 健康の定義（WHO憲章）とその概念 ② わが国の健康水準 平均寿命 死亡率 乳児死亡率 人口動態調査 ③ 目指すべき健康とは 健康寿命 健康を増進する環境づくり ヘルスプロモーション	【第1章】 1 健康の定義を理解し、わが国の現状と、理想とする健康の状況を学ぶことで、以下の章での指針とする。
2	3	2 食と健康の関係 ① 食生活が健康に果たす役割 ライフステージ 生活習慣病 メタボリックシンドローム 摂食障害（拒食症／過食症） ② 健康的な食生活習慣づくり 食生活指針（10の視点）	2 食生活と健康の関連を理解し、どのような食生活をすれば1(1)の定義のような健康を得られるかを学ぶ。
3	3	3 調理師の役割 ① 調理師の成り立ち 調理師の歴史 ② 調理師法の概要 目的／定義／免許 調理師試験 免許の申請／登録／変更等 名簿の訂正／削除 免許証の書換え／取り消し 就業届け出制度 設置努力義務 調理技術者会 調理師会	3 調理師の成り立ちを知り、調理師法の概要を知る。また、国民が食生活を送るうえでどのような役割を担っているかを考え、減塩など様々な知識を得ることで健康でおいしい食事を提供することの大切さを学ぶ。
4	3	③ 食生活における調理師の役割 健康を維持増進させる食事の提供 おいしさ と喜びを与える料理に創作 生活習慣病の予防 食の安全・安心の確保 食育 の実践 環境と調和した食資源の有効利用【小テスト：範囲 調理師と健康】	
5	3	【第2章 食生活と疾病】 第2章のねらい／ポイント 1 疾病の動向とその予防 ① 疾病の動向 ② 疾病の予防 予防活動の分類 予防活動の変化 死亡原因の変化	【第2章】 1 代表的な疾病とその概要を理解する。
6	3	2 生活習慣病 ① 生活習慣病とは 三大生活習慣病（がん／心疾患／脳血管疾患） 生活習慣病の増加／リスク要因（危険因子） 喫煙／飲酒 (1) がん がんの原因／メカニズム 食習慣と生活環境との関係 増加／減少のがん（男女別、肺・大腸・胃・乳がんなど） (2) 心疾患 虚血性心疾患、心筋梗塞、狭心症 (3) 脳血管疾患 脳内出血、脳梗塞、くも膜下出血 (4) その他 高血圧 糖尿病のタイプ 2型糖尿病 合併症 インスリン 耐薬異常症 LDL／HDLコレステロール 骨粗しょう症 痛風 ② 生活習慣病の国際比較と生活習慣の重要性 死亡原因の欧米型 食習慣の洋風化 ③ 生活習慣病の予防 基本的な生活習慣の見直し（改善） 健康を維持するための7つの生活習慣（フレスロー） がんを防ぐための新12カ条（がん研究振興財団） がん対策基本法	2 食生活と関連の深い生活習慣病を学ぶ。 また適切な食生活が生活習慣病の予防につながることを理解する。
7	3	【第3章 健康づくり】 第3章のねらい／ポイント 1 健康づくり対策 ① 疾病予防から健康増進へ 疾病予防の段階 第1次予防 健康の維持増進 発症予防 第2次予防 疾病の早期発見・早期治療 がん検診 第3次予防 機能の維持・回復訓練 リハビリテーション 健康増進 リスクの低減 ゼロ次予防【小テスト：範囲 食生活と疾病～疾病予防の段階】 ② 健康増進法 目的／業務の明確化／基本方針など 国民健康・栄養調査 保健指導・栄養指導の実施 特定給食施設での栄養管理 受動喫煙の防止 特別用途表示等 ③ わが国における健康づくり対策 健康づくり対策の概要 国民健康づくり運動（健康日本21） 新健康フロンティア戦略 健康日本21（第2次） 健康寿命の延伸 生活習慣病の発症予防 ④ 健康教育 健康教育の目的／方法 健康づくりのための休業指針 ⑤ 健康に関する食品情報 食品表示法による表示 食品表示基準 栄養成分表示／強調表示 栄養機能食品 機能性表示食品 特別用途食品	【第3章】 1 わが国の健康増進の対策がどのように行われているかを知り、その中の調理師の位置づけを理解する。 また、健康に有用な食品に関する表示方法を学ぶ。
8	3		
9	3		
10	3		
11	3		
12	3		
13	3		
14	3		
15	3		
コマ数 小計	45 h		

回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
16	3	特定保健用食品（一般型／規格基準型／疾病リスク低減表示／条件付き） その他の表示 公正マーク 冷凍食品／HACCP／JHFA／JPA／SQマーク 容器包装に関する表示 資源有効利用促進法	
17	3	2 心の健康づくり ① 心身相関とストレス 欲求のしくみ 適応機制 心身相関のしくみ ストレスのしくみ 心的外傷後ストレス障害（PTSD） ② ストレスの対処方法 原因に向き合う 見方や考え方を変える	2 心と体の関係を知り、ストレスが引き起こす健康障害を学ぶ。 ストレスへの対処法を知ることで、今後の職業生活の助けとする。
18	3	気分転換をする 気分転換の方法（スポーツ／食事／会話／入浴／運動 など） マイナスの対処方法 相談をする ③ 心の健康と自己実現 自己実現 自己実現の達成	
19	3	【第4章 調理師と食育】 第4章のねらい／ポイント 1 食育とは ① 食育の定義 食育基本法における定義 知育／徳育／体育の基礎 ② 食育の意義 現代社会の食生活 ③ 食育基本法の概要 目的 基本理念 国や地方公共団体の責務 基本的施策 食育推進会議・基本計画 食育白書	【第4章】 1 食育とは何かを学び、食育推進の必要性を理解する。
20	3	2 食育における調理師の役割 ① 正しい知識の提供 食生活の課題 食料事情の 課題 食料自給率の減少 品別／穀物／総合食料自給率 即大な食品ロス ② 食育の実践 食育インストラクターとしての実践 職場における実践 地域での実践 【小テスト：範囲 食品表示～調理師と食育】	2 正しい知識を提供できるように、現代の食生活の問題点を把握する。
21	3		
22	3	【第5章 労働と健康】 第5章のねらい／ポイント 1 労働と健康 ① 作業環境と健康 作業環境管理 作業管理 健康管理 労働衛生教育 労働衛生管理体制の整備 ② 作業条件と健康 労働時間 休憩 休日 有給休暇 賃金 年少者の保護 母性保護 解雇の制限 ③ 職業病 主な職業病とその特徴（原因：作業方法別／作業環境別） ④ 労働災害 労働災害とは 近年の労働災害 労働災害が起こったら	【第5章】 1 労働環境の現状を学び、労働者の健康増進のために必要な事項を理解する。
23	3		
24	3	2 調理師の職場環境 ① 職場環境の現状 調理人の数 賃金 労働時間 ② 調理施設の環境 調理場（自然／人工換気 採光／照明） 食品製造施設 調理場での衣類 組織素材 ③ 調理施設での労働災害 事例 予防法・対処法	2 調理師の職場環境の現状を学び、正しい労働条件を把握する。
25	3	【第6章 環境と健康】 第6章のねらい／ポイント 1 生活環境 ① 生活環境の衛生 生態系 食物連鎖 ② 現代の生活環境 生活環境の概要 ③ 環境因子 人を取り巻く環境因子	【第6章】 1 私たちを取り巻く環境を知り、環境の問題点・課題について学ぶ。
26	3	2 環境条件 ① 大気（組成、気圧、温度、気候） ② 水（水の量、性質、上・下水道） ③ 住居 健康で安全な条件 ④ 廃棄物 一般／産業廃棄物 リサイクル法 ⑤ 放射線 電離／非電離放射線 マイクロウェーブ 電子レンジ 太陽光線 （紫外線・可視光線・赤外線） 【小テスト：範囲 労働と健康～環境条件】	2 環境を形成している条件を学び、成り立ちを知る。
27	3	3 環境汚染とその対策 ① 広がる環境汚染 公害とは 環境基本法 公害の歴史 （第1期～第4期） 四大公害病（四日市ぜんそく、水俣病／新潟水俣病、 イタイイタイ病） 光化学スモッグ ② 空気汚染 空気汚染による公害 室内（調理場、食室内等）の防止対策 浮遊粉じん PM2.5（微小粒子状物質） ③ 水質汚染 水質汚染公害／現状 水質基準 安全な水の確保について ④ 騒音・振動・悪臭 騒音公害 騒音／振動規制法 悪臭防止法 基準規制値 ⑤ 環境問題とその取り組み 環境ホルモン（外因性内分泌かく乱化学物質） ダイオキシンなど シックハウス症候群 地球温暖化 温室効果ガス（CO2、 メタンなど） 地球温暖化の影響 温暖化防止／温室効果ガス排出量の削減対策 酸性雨 オゾン層の破壊 紫外線（UV-A、UV-B、UV-C） ノンフロン冷媒 食品に含まれる放射性物質 循環型社会の形成 食品リサイクル法 食品環境資源	3 環境汚染の現状を学ぶ。最終の環境問題を通して、環境が健康と食生活に及ぼす影響を理解する。
28	3		
29	3		
30	3		
コマ数 合計	45 h		

年間授業進度計画予定表

No.

(1)	教科名	栄養学
(2)	対象学年	1年
(3)	対象学科	シェフ学科・健康給食学科・カフェ学科
(4)	テキスト・教材	新調理師養成講座教育全書2 食品と栄養の特性

(5)	年間規定時間数	90H
(6)	週あたり時間数予定	3H
(7)	到達目標	①栄養と健康との関連を理解し、おいしく安全な食事を提供できるための知識を習得する ②課題のプリントを整理することで理解する力、学んだことを基に工夫して献立作成ができる
(8)	評価方法	学期末試験 授業態度 小テスト 課題

予 定			
回数	コマ数	指導内容（上段）・学習活動（下段）	指導ポイント
1	3	栄養学とは何を学ぶ学問か オリエンテーション（一年間の目標、自己紹介）	栄養学を学ぶ目的を考えさせる。食と健康の密接な関係を理解させる
2	3	栄養と健康（糖類、食品の成分と体の成分、食品の3つの機能） 配付プリントを行う。確認テスト①	五大栄養素、糖類と炭水化物や身体構成成分として変化する仕組みを理解させる
3	3	自分に合った摂取エネルギー算出法 BMI・標準体重、基礎代謝量、1日の摂取エネルギーの計算	エネルギーの収支バランスの理解と自己の適正摂取量を計算し興味関心を抱かせる
4	3	炭水化物炭（糖質の種類、特徴、働き、主食、甘味料） 配付プリントを行う。確認テスト②	エネルギー源としての役割を理解させ、主食の献立を工夫させる
5	3	炭水化物（食物繊維） 配付プリントを行う。献立作成。確認テスト③	食物繊維の役割を理解させ食物繊維の多い食品を組み合わせた献立を工夫させる
6	3	脂質（糖類、特徴、働き、話題の油） 自己の食事の問題点と改善点を整理。確認テスト④	脂質の役割と調理の工夫でバランスの取れた食事を理解させる
7	3	脂質（食品中のコレステロールと摂取量） 配付プリントを行う。献立作成、発表⑤	過不足による体調の変化、生活習慣病の影響と調理の工夫を考えさせる
8	3	たんぱく質（種類、特徴、働き、体の構成成分） 配付プリントを行う。確認テスト⑥	必須アミノ酸の役割を理解させ、たんぱく質を主とした献立作成をさせる
9	3	たんぱく質の補足効果（食品の組み合わせ） 配付プリントを行う。確認テスト⑦	栄養価を高める効果や影響を理解させる
10	3	ビタミン（種類、特徴、働き） 配付プリントにビタミンと役割をまとめる。確認テスト⑧	水溶性と不溶性ビタミンの役割、ビタミン様物質の有効性を理解させる
11	3	ビタミン（過不足と疾病の関連） 多く含む食品と調理の工夫を考え、献立作成、発表	生活習慣病との関連を理解させ、ビタミンの特徴を活かした献立を作成させる
12	3	ミネラル（種類、特徴、働き） 配付プリントにミネラルの役割をまとめる。確認テスト⑨	成長期であるが重要な役割である「骨」を理解させる
13	3	ミネラル（過不足と疾病の関連） 多く含む食品と調理の工夫を考え、献立作成、発表	生活習慣病との関連を理解させ、ミネラルの特徴を活かした献立を作成させる
14	3	水分 機能性成分（3つの機能） 配付プリントを行う。確認テスト⑩	水分の出入りバランスと機能性成分の効果を理解させる
15	3	前期テスト対策 ①～⑩までの確認テスト復習	
		※上段：指導内容 ※下段：学習活動	
コマ数合計	45		

予 定			
回数	コマ数	指導内容（上段）・学習活動（下段）	指導ポイント
16	3	前期テスト返却、復習	前期の復習
17	3	食品の摂取について（生理的欲求 心理的欲求） 配付プリントを行う。確認テスト⑪	食欲の仕組みを理解させる
18	3	栄養素の消化（糖類、働き、消化液の分泌） 配付プリントを行う。確認テスト⑫	消化器の機能を理解させる
19	3	栄養素の消化（口腔内、胃内、小腸内、大腸での消化） 配付プリントを行う。確認テスト⑬	消化器と消化の役割を理解させる
20	3	腸内細菌（腸内細菌の種類、働き） 配付プリントを行う。確認テスト⑭	腸内の環境と乳酸菌の効果
21	3	栄養素の吸収 配付プリントを行う。確認テスト⑮	栄養素の吸収、経路と体外に排出するまでの流れを理解する
22	3	肝臓・膵臓の役割 配付プリントを行う。確認テスト⑯	消化吸収に重要な臓器であることを理解させる
23	3	栄養素の代謝（糖質、脂質、たんぱく質の代謝） 配付プリントを行う。確認テスト⑰	糖質、脂質、たんぱく質の代謝の仕組みを理解させる
24	3	日本人の食事摂取基準・日本食品標準成分表 配付プリントを行う。確認テスト⑱	指値と活用について理解させる
25	3	食品分類法（3色食品群、4つの食品群、6つの基礎食品群）・栄養バランス食 配付プリントを行う。確認テスト⑲	それぞれの食品群で適量を理解し、4色の食事を解決させる
26	3	ライフステージと栄養（妊娠期・授乳期・乳児期の栄養） 配付プリントを行う。確認テスト⑳	母体の健康維持と胎児から乳児の栄養について理解させる
27	3	ライフステージと栄養（学童期・思春期の栄養） 配付プリントを行う。確認テスト㉑	成長、発達に見合った栄養の取り方について理解させる
28	3	ライフステージと栄養（青年期・壮年期・中年期・高齢期の栄養） 配付プリントを行う。確認テスト㉒	生活習慣病との関係と調理の工夫を理解させる
29	3	食にまつわる問題・課題 食にかかわる問題をできることから考え、発表	食事情に興味関心を高め、実践につなげる
30	3	後期テスト対策 ⑪～㉒までの確認テストの復習	理解度を評価
		※上段：指導内容 ※下段：学習活動	
コマ数合計	45		

年間授業進度計画予定表

No.

(1)	教科名	食品学
(2)	対象学年	1年
(3)	対象学科	シェフ学科・健康給食学科・カフェ学科・調理師学科
(4)	テキスト・教材	食品学（調理師養成教育全書⑤） 食品成分表 プリント 実物教材

(5)	年間規定時間数	60h
(6)	週あたり時間数予定	2h
(7)	到達目標	調理師免許取得
(8)	評価方法	学期末試験 授業態度 小テスト 課題

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	2	自己紹介 調理師の社会的使命と役割 食品学を学ぶ目的 第1章食品学概論 1. 食品学とは	スタートは大切 料理人はエンターティナーと認識。 食品機能、食事の理解、食物と食品の違いを理解する
2	2	①小テスト（食品の機能特性） 2. 食品の種類と分類 市販食品の表示しらべ	食品の分類法について知る。 食品に表示がある事を知り、読み取るようになる
3	2	3. 食品の成分と性質 水分 炭水化物 脂質 たんぱく質	食品がどのような成分性質からできているか知る。 各成分が担っている体内での働きや特徴を知る
4	2	②小テスト（成分と性質-1） ビタミン ミネラル 嗜好成分	生活習慣病とかわり強い部分は詳細説明する。 期待される機能性成分について知る
5	2	③小テスト（成分と性質-2） 4. 食品成分表とその活用 課題	成分表の分類、配列、利用上の注意を知る。 実際の成分表を活用してみる。 表示法は覚える
6	2	5. 食品の加工と貯蔵 ①食品の加工 ②食品の貯蔵	食品加工の目的、方法、特徴について各々の比較を知る。 食品貯蔵の目的、方法、特徴について各々の比較を知る。 動物性食品との違いを説明し、理解を深める
7	2	④小テスト（加工と貯蔵） 第2章食品の種類と性質 1. 植物性食品とその加工品 米	植物性食品の分類と加工品について理解する
8	2	①穀類 米 小麦その他の穀類	主食である米について種類、構造、特性を知る。 小麦その他の穀類の構造、特性、利用を知る
9	2	④小テスト（穀類） ②いも類及びでん粉類 ③砂糖及び甘味類	いも類及びでん粉類の特性、利用を知る。 砂糖及び甘味類の特性、利用を知る
10	2	⑤小テスト（芋と甘味類） ④豆類 大豆 小豆及びその他の豆類	大豆の植物性たん白質としての重要性、特性、利用を知る。 その他の豆類の特性と利用を知る
11	2	⑥小テスト（豆類） ⑤雑実類 ⑥野菜類総論と分類	雑実類の分類と特性を知る。 野菜類の栄養的価値、生活習慣病予防の栄養的価値と利用について理解を深める
12	2	⑦小テスト（雑実類） 野菜類各論と加工品 活性酸素と抗酸化食品	抗酸化食品の中での野菜の位置づけを知る
13	2	⑧小テスト（野菜類） ⑦果実類 ⑧きのこ類	果実の栄養的価値について知る。 きのこ類の3次機能としての役割と種類を知る
14	2	⑨小テスト（果実・きのこ） ⑨藻類 夏休みの課題（食品調べ）（食に関することわざ調べ）	藻類の3次機能としての役割と種類を知る。 内食はアピール性も、成分表インターネット上とスマホからの引
15	2	前期授業のまとめ 前期期末試験対策	前期期末試験に向けた確認 試験対策
コマ数合計	30		

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
16	2	前期末試験について 香辛料 フレッシュとドライの比較	ハーブは飲料と料理用の違い 香辛料のフレッシュとドライに触れる
17	2	第2章食品の特徴と性質 2. 動物性食品とその加工品 ①魚介類	動物性食品とは？ 魚介類の果たす栄養的役割
18	2	魚介類の一般成分特性 主な魚介類の特徴	私語硬直と鮮度 魚々の魚介の種類 利用方法加工品
19	2	②食肉類 ①小テスト（魚介類） 食肉類の一般成分特性	構造と肉質について学ぶ
20	2	主な食肉の特徴と加工品 新潟地鶏	部位の違いと調理方法についてプリントで学ぶ。
21	2	③卵類 ②小テスト（食肉類） 卵の一般成分特性	完全食品としての卵の価値 鶏卵の多様性と実際の食品例
22	2	④乳類 ③小テスト（卵類） 牛乳の一般成分特性	牛乳の空き缶から種類と特性を知る
23	2	牛乳と乳製品の種類	乳製品などから牛乳の加工製品を知る。 チーズのいろいろの写真をみる
24	2	3. 油脂 ④小テスト（牛乳） 動物性油脂と植物性油脂	食用ゆきの性状 トランス脂肪酸 脂肪酸構造の違いが性質に影響していることを知る
25	2	4. 嗜好品 嗜好飲料 ⑤小テスト（油脂） 菓子類と嗜好飲料	非アルコール飲料とアルコール飲料
26	2	5. 調味料及び香辛料 食塩 食酢 みそ 醤油 ソース みりん	調味料 香辛料の果たす役割 子らの調味料
27	2	6. 調理加工品 ⑥小テスト（その他）	調理加工食品の分類 構造方法成分表を見ながら確認する
28	2	第3章食品の表示 各種表示制度	各種表示制度から食の安心安全 アレルギー表示について
29	2	食品学後期授業まとめ	後期試験に向けて学んだ内容の振り返
30	2	後期期末試験対策 各種表示制度	アレルギーおよびについて
コマ数合計	30		

年間授業進度計画予定表

No.

(1)	教 科 名	食品衛生学（実習）
(2)	対 象 学 年	1 年生
(3)	対 象 学 科	シェフ学科・健康給食学科・カフェ学科
(4)	テ キ ス ト ・ 教 材	新 調理師養成教育全書（必修偏） 3.食品の安全と衛生

(5)	年間規定時間数	30時間
(6)	週あたり時間数予定	4時間(前期、または後期の8週間)
(7)	到達目標	実習を通して、講義で学んだ食品衛生に関する知識を深め、調理現場での衛生管理の要領に役立てる知識および技術を習得する。
(8)	評価方法	期末試験 確認テスト 提出物 授業態度

予 定			
回数	コマ数	指導内容 ・ 実習内容	指導ポイント
1	2	オリエンテーション 実習上の諸注意・心得、細菌学の基礎	実習の目的
	2	人体に付着・定着する細菌に対する理解（１）	人体の植息菌の存在
2	2	前回の判定および分離菌の解説	菌の培養
	2	細菌の染色原理および染色	グラム染色
3	2	人体に付着・定着する細菌に対する理解（２）	人体の植息菌の存在
	2	前回の判定および分離菌の解説	菌の培養
4	2	飲用水・非飲用水の細菌学的・化学検査	水道水の衛生
	2	前回の判定および分離菌の解説	菌の培養
5	2	食材からの食中毒起因菌の分離	食品の衛生状態
	2	前回の判定および分離菌の解説	菌の培養
6	2	食肉および魚肉練り製品の鮮度・品質管理	生魚・生肉の鮮度判定
	2	生卵・牛乳の鮮度検査	卵・牛乳の鮮度判定
7	2	穀類の鮮度・品質検査	米の鮮度判定
	2	食器の残留物・洗剤の残留検査	食器の洗浄度チェック
8	2	実習のまとめ	
	0		
コマ数合計	30		

	予定					
回数	コマ数	指導内容 ・ 実習内容				指導ポイント
コマ数合計	0					

年間授業進度計画予定表

No.

(1)	教科名	衛生法規
(2)	対象学年	1年
(3)	対象学科	シェフ学科・健康給食学科・カフェ学科・調理師学科
(4)	テキスト・教材	調理師養成教育全書

(5)	年間規定時間数	30H
(6)	週あたり時間数予定	1H
(7)	到達目標	調理師として必要な「食品の安全と衛生に関する衛生法規を中心とした知識」を習得する
(8)	評価方法	前期・後期の期末テストにおいて評価する

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	1	第一章 食の安全と衛生 法律の意義と衛生法規	学ぶ姿勢と勉強付けを指導する
2	1	第一章 食の安全と衛生 (1) 食の安全を守る(食の安全に関する法規を学ぶ必要性について付加)	食品安全に関する法規の重要性を認識させる
3	1	第一章 食の安全と衛生 (2) 食の安全を脅かす要因、(3) 食の安全確保のしくみ	食中毒の発生傾向と国内および世界における法体系の解説
4	1	第一章 食の安全と衛生 (4) 食品衛生とは、(5) 食品衛生と調理師の役割	調理師に課せられた責務と役割を認識させる
5	1	第一章のまとめと小テスト	小テストにより理解度を確認し、不足部分を再指導する
6	1	第6章 食品安全対策 (1) 食品安全対策とは	食品安全基本法制定の背景を解説する
7	1	第6章 食品安全対策 (2) 食品安全対策に関わる法律①食品衛生法	食品衛生法の成り立ちから衛生規制を理解させる
8	1	第6章 食品安全対策 (2) 食品安全対策に関わる法律①食品衛生法	食品衛生法における営業規制を解説する
9	1	第6章 食品安全対策 (2) 食品安全対策に関わる法律②食品安全基本法	食品安全基本法の基本理念に関する解説
10	1	第6章 食品安全対策 (3) 食品安全行政/中央組織(食品安全委員会)	食品安全基本法の中核である食品安全委員会に関する解説
11	1	第6章 食品安全対策 (3) 食品安全行政/地方組織(都道府県・政令市・特別区)	食品衛生行政の第一線は食品衛生監視員であることを解説
12	1	第6章 食品安全対策 (4) 食品安全情報の共有①食品表示②食品表示法	食品表示の意義と食品表示法のしくみを解説
13	1	第6章 食品安全対策 (4) 食品安全情報の共有②食品表示法	加工食品の表示を中心に個別表示項目を解説
14	1	第6章 食品安全対策 (4) 食品安全情報の共有②食品表示法	生鮮食品の表示に関する解説
15	1	第6章 食品安全対策 (4) 食品安全情報の共有②食品表示法③その他の法律による表示	JAS法の意義と表示制度および表示項目を解説
コマ数合計	15		

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
16	1	第6章 食品安全対策 (4) 食品安全情報の共有③その他の法律による表示	表示に関するすべての法規制を学習し振り返り小テストを行う
17	1	第6章 食品安全対策 (5) 食品調理施設・設備の安全対策/営業施設・設備の衛生管理①	ガイドラインが示す施設・設備とその規定理由を理解させる
18	1	第6章 食品安全対策 (5) 食品調理施設・設備の安全対策/営業施設・設備の衛生管理②	施設・設備の適切な運営について解説
19	1	第6章 食品安全対策 (5) 食品調理施設・設備の安全対策/営業施設・設備の衛生管理③	営業施設における施設・設備の規定と管理に関する振り返り小テストを行う
20	1	第6章 食品安全対策 (6) 調理従事者の健康管理	健康管理は個人衛生が中心となることを理解させる
21	1	第6章 食品安全対策 (7) 調理作業時における安全対策①食材の衛生管理	大皿調理施設衛生管理マニュアルの解説
22	1	第6章 食品安全対策 (7) 調理作業時における安全対策②異物混入防止対策③手洗い	環境・人からの汚染防止対策の重要性を理解させる
23	1	第6章 食品安全対策 (7) 調理作業時における安全対策④洗浄・消毒・殺菌#1	洗浄・消毒・殺菌の意味を理解させる
24	1	第6章 食品安全対策 (7) 調理作業時における安全対策④洗浄・消毒・殺菌#2	様々な消毒・殺菌方法を解説する
25	1	第6章 食品安全対策 (8) 自主衛生管理 HACCP①HACCP#1	HACCPの解説と業界での取り組み状況を解説
26	1	第6章 食品安全対策 (8) 自主衛生管理 HACCP①HACCP#2	HACCPの7原則12手順及びSSOPを解説する
27	1	第6章 食品安全対策 (8) 自主衛生管理 HACCP②HACCPの普及・推進	HACCPを普及・推進する必要性を理解させるとともにHACCPに関する振り返り小テストを行う
28	1	第6章 食品安全対策 (9) 食品事故対応①食中毒などの発生に対する危機管理#1	主な食中毒事例と発生原因及び回避手段を解説
29	1	第6章 食品安全対策 (9) 食品事故対応①食中毒などの発生に対する危機管理#2	主な食中毒事例と発生原因及び回避手段を解説
30	1	第6章 食品安全対策 食品安全対策全般の総まとめ	主にHACCP及び危機管理に関連する振り返り小テストを行う
コマ数合計	15		

年間授業進度計画予定表

No. _____

(1)	教科名	調理理論Ⅰ
(2)	対象学年	1年
(3)	対象学科	シェフ学科、健康給食学科、カフェ学科、
(4)	テキスト・教材	調理師養成教育全書4（調理理論と食文化概論）第1章・2章・4章

(5)	年間規定時間数	90時間
(6)	週あたり時間数予定	3H
(7)	到達目標	調理理論の教科書を使い知識を覚える
(8)	評価方法	前期・後期試験問題をテストで評価し、採点を（100点満点）行う。授業態度、出席率も評価に含む。

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	3	第1章 調理理論を学ぶ意義	調理師となる為の重要性の理解
2	3	調理の目的 嗜好性の多様化	嗜好性の多様化、栄養師の向上、安全性の向上、文化の理解
3	3	美味しさの構成	テクスチャー、味や香り、美味しさの理解
4	3	食べ物の側にある原因 科学的要因	美味しさの基本となる5味の理解
5	3	プリント復習	
6	3	味の相互作用 食べ物の香について	異なる二つの物質を混ぜたときの効果を理解
7	3	物理的要因	温度、テクスチャー、外観、音などの要因の理解
8	3	テクスチャー・外観について	口の中で感じる性質の理解
9	3	食べる側にある要因	心理的、生理的、先天的後天的、環境的要因の理解
10	3	プリント復習	
11	3	第2章 調理の基本技術 非加熱調理、計量、洗浄、浸漬、切碎、混合かくはん	非加熱調理における仕組み部分を理解
12	3	調理の基本操作 磨砕、粉砕、成型、圧搾、ろ過、冷凍冷却解凍	非加熱調理における仕組み部分を理解
13	3	加熱調理操作 湿式加熱、乾式加熱	加熱における調理5法を理解
14	3	まとめテスト1	
15	3	まとめテスト2	
16	3	まとめテスト3	
17	3	第4章 調理設備・器具と熱源 調理施設・設備とは	調理の目的や環境に応じて器具、設備の選択の理解
コマ数合計	51		

予 定			
回数	コマ数		指導ポイント
18	3	調理器具、非加熱調理器具 はかり、温度計、包丁、フードプロセッサー、すり鉢	各器具の特徴と使用後の扱い方の理解
19	3	加熱調理調理器具 鍋、蒸器、オーブン、コンベクション	対流加熱を理解
20	3	加熱調理器具 電子レンジ、電磁調理器	誘電加熱、誘導加熱の理解
21	3	冷蔵庫、冷凍庫	間冷式、直冷式の理解
22	3	食器・容器 陶器、磁器、土器	陶磁器の特徴、産地の理解
23	3	金属器 アルミニウム製、アルマイト製、ステンレス製	素材による取り扱い方
24	3	洋食器の種類と特徴 皿、カトラリー、グラス類、コーヒーティーカップ	西洋料理フルコースにおける皿類、備品類の理解
25	3	中国料理、器の種類と特徴 皿、碗、器レンジ、酒器、茶器	
26	3	まとめテスト	
27	3	熱源の種類と特徴 気体燃料、固体燃料	石炭、まき、糠炭、木炭、都市ガス、プロパンガス
28	3	電気コンロ、電気ヒーター、電子レンジ、電磁調理器	ジュール熱の発生による電気コンロ、電気ヒーターについての理解
29	3	まとめテスト1	
30	3	まとめテスト2	
コマ数合計	39		

年間授業進度計画予定表

No. _____

(1)	教科名	調理理論Ⅱ
(2)	対象学年	2年
(3)	対象学科	シェフ学科・健康給食学科・カフェ学科
(4)	テキスト・教材	調理師養成教育全書 4

(5)	年間規定時間数	60h
(6)	週あたり時間数予定	2h
(7)	到達目標	植物性食品・動物性食品について学ぶ
(8)	評価方法	前期・後期期末試験による評価

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	2	第1節 植物性食品 ① 穀類 1 米 (1) 白飯	
2	2	第1節 植物性食品 ① 穀類 1 米 (2) かゆ (3) 味付け飯	
3	2	第1節 植物性食品 ① 穀類 1 米 (4) 強飯 2 米粉 (1) 上新粉 (2) 白玉粉	
4	2	第1節 植物性食品 ① 穀類 3 小麦粉 (1) グルテン (2) ドウとバター 3 小麦粉 (3) 膨化	
5	2	第1節 植物性食品 ① 穀類 3 小麦粉 (4) 粘性 4 そば	
6	2	第1節 植物性食品 ① 穀類 4 そば	
7	2	第1節 植物性食品 ② いもおよびでんぷん類 1 いも類 (1) じゃがいも (2) さつまいも (3) さといも (4) やまのいも	
8	2	第1節 植物性食品 ② いもおよびでんぷん類 2 でんぷん類 (1) でんぷんの糊化と老化 (2) 主でんぷん	
9	2	第1節 植物性食品 ③ 砂糖 1 砂糖の調理性 (1) 高い溶解性 (2) 高い水分の保持能力 (3) でんぷんの糊化に阻 (4) 糖白の色の安定 (5) たんぱく質の凝固に阻	
10	2	第1節 植物性食品 ③ 砂糖 1 砂糖の調理性 (6) 食品の防腐 (7) ゼリー形成 (8) 結晶化 (9) カラメル化 (10) 転化糖の生成	
11	2	第1節 植物性食品 ③ 砂糖 2 砂糖の濃度 第1節 植物性食品 ④ 豆類 1 大豆 (1) 大豆の吸収	
12	2	第1節 植物性食品 ④ 豆類 1 大豆 (2) 大豆の加熱 2 黒豆 3 小豆	
13	2	第1節 植物性食品 ⑤ 糧実類 第1節 植物性食品 ⑥ 野菜類 1 野菜の香り 2 野菜類のあく	
14	2	第1節 植物性食品 3 野菜類のテクスチャー (1) 水分 (2) ペクチン質の性質 4 野菜類の色の変化 (1) クロロフィル	
15	2	第1節 植物性食品 4 野菜類の色の変化 (2) カロチノイド (3) フラボノイド (4) アントシアニン (5) ポリフェノール類	
コマ数 合計	30		

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
16	2	第1節 植物性食品 ⑥ 野菜類 5 野菜類の調理による栄養成分の変化	
17	2	第1節 植物性食品 ⑦ 果実類 1 果実類の香り 2 果実類の色 3 果実類の特殊成分 (1) ペクチン (2) 酵素 第1節 植物性食品 ⑧ きのこと類 1 きこの類の香り 2 きこの類の味	
18	2	第1節 植物性食品 ⑧ 穀類 1 穀類の色 (1) 緑藻類 (2) 褐藻類 (3) 紅藻類 2 藻類の味 3 藻類のだし	
19	2	第2節 動物性食品 ① 魚介類 1 魚介類の生食調理 (1) さしみ (2) あらい 1 魚介類の生食調理 (3) 塩締め (4) こぶ締め (5) 酢締め	
20	2	2 魚介類の加熱による変化 3 魚介類の加熱調理 (1) 煮魚 (2) 焼き魚 (3) ムニエル (4) 揚げ物 (5) 魚肉だんご	
21	2	第2節 動物性食品 ① 魚介類 4 いかと貝類の調理 (1) いか (2) 貝類	
22	2	第2節 動物性食品 ② 食肉類 1 食肉類の加熱による変化 (1) 弾力性の増加 (2) コラーゲンの変性と分解 (3) 肉汁の浸出	
23	2	1 食肉類の加熱による変化 (4) うま味の増加 (5) 色の変化 (6) におい成分の変化 2 食肉類の軟化 (1) 機械的方法 (2) 酵素の利用 (3) 調味料の利用	
24	2	3 食肉類の調理 (1) 肉の部位と調理法 (2) 焼く調理 (3) 煮る調理 (4) ひき肉の調理 (5) 鶏肉の調理 (6) 副生物の調理	
25	2	第2節 動物性食品 ③ 卵類 2 卵類の凝固性 (1) 殻のままの調理 (2) 割卵して行う調理 2 卵類の凝固性 (3) 割りほぐして行う調理 (4) 希釈卵液を用いる調理	
26	2	(6) その他の熱凝固性を利用したもの (7) 熱以外の凝固性 3 卵類の起泡性 (1) 卵白の起泡性 (2) 卵黄の起泡性 (3) 全卵の起泡性	
27	2	4 卵類の乳化性 第2節 動物性食品 ④ 乳類 1 牛乳 (1) 牛乳の調理による変化 (2) 牛乳の調理性 2 乳製品 (1) クリーム (2) バター (3) チーズ	
28	2	第3節 その他の食品 ① 油脂類 1 揚げ物の調理 (1) てんぷら (2) パン粉揚げ (3) ポテトチップ 2 調味料としての利用 (1) 香り、滑らかさの付与 (2) ドレッシング、マヨネーズ	
29	2	3 菓子への利用 (1) クリーミング性 (2) ショートニング性 (3) 溶解性と可塑性 第3節 その他の食品 ② 調味料 1 食塩 (1)～(5) 2 食酢 (1)～(4) 3 みそ 4 しょうゆ	
30	2	第3節 その他の食品 ③ゲル状食品 1 寒天 2 ゼラチン 3 カラギーナン 4 ペクチン	
コマ数 合計	30		

年間授業進度計画予定表

No. _____

(1)	教科名	食文化概論
(2)	対象学年	2年
(3)	対象学科	シェフ学科・健康給食学科・カフェ学科
(4)	テキスト・教材	調理師養成教育全書 4

(5)	年間規定時間数	30h
(6)	週あたり時間数予定	1h
(7)	到達目標	日本・及び外国の食文化を学び、理解する。
(8)	評価方法	前期・後期期末試験による評価

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	1	第5章 食と文化 第1節 食文化の成り立ち ①食文化とは何か ②食文化の相対性	
2	1	第5章 食と文化 第2節 多様な食文化 ①自然環境と食文化	
3	1	第5章 食と文化 第2節 多様な食文化 ②宗教と食物禁忌	
4	1	第5章 食と文化 第2節 多様な食文化 ③食法・調理法などの多様性	
5	1	第5章 食と文化 第3節 食文化の共通化と国際化 ①食の伝播と変容 ②異文化交流による食の国際化	
6	1	第5章 食と文化 第3節 食文化の共通化と国際化 ③食生活の変容と食文化の創造	
7	1	第5章 食と文化 第3節 食文化の共通化と国際化 ④世界の食事情	
8	1	第5章のまとめ プリント	
9	1	第6章 日本の食文化 第1節 日本の食文化 ①原始 ②古代	
10	1	第6章 日本の食文化 第1節 日本の食文化 ③中世 ④近世	
11	1	第6章 日本の食文化 第1節 日本の食文化 ⑤近代 ⑥現代	
12	1	第6章 日本の食文化 第2節 日本料理の食文化 ①日本料理の特徴	
13	1	第6章 日本の食文化 第2節 日本料理の食文化 ②日本料理様式	
14	1	第6章 日本の食文化 第2節 日本料理の食文化 ③日本料理の食事作法	
15	1	第6章 日本の食文化 第3節 行事事食と郷土料理 ①食文化の地域性 ②行事事食	
コマ数合計	15		

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
16	1	第6章 日本の食文化 第3節 行事事食と郷土料理 ③郷土料理	
17	1	第6章 日本の食文化 第4節 現代の食生活と未来の食文化 ①食生活の現状	
18	1	第6章 日本の食文化 第4節 現代の食生活と未来の食文化 ② 食文化の未来	
19	1	第6章のまとめ プリント	
20	1	第7章 世界の料理と食文化 第1節 西洋料理の食文化 ①西洋料理の要諦	
21	1	第7章 世界の料理と食文化 第1節 西洋料理の食文化 ②西洋料理の特徴	
22	1	第7章 世界の料理と食文化 第1節 西洋料理の食文化 ③ 西洋料理様式 ④西洋料理の食事作法	
23	1	第7章 世界の料理と食文化 第2節 中国料理の食文化 ①中国料理の要諦	
24	1	第7章 世界の料理と食文化 第2節 中国料理の食文化 ②中国料理の特徴と系統	
25	1	第7章 世界の料理と食文化 第2節 中国料理の食文化 ③中国料理様式	
26	1	第7章 世界の料理と食文化 第2節 中国料理の食文化 ④中国料理の食事作法	
27	1	第7章 世界の料理と食文化 第3節 その他の国の料理の食文化 ①アジアの料理	
28	1	第7章 世界の料理と食文化 第3節 その他の国の料理の食文化 ②中東の料理 ③中南米の料理	
29	1	第7章のまとめ プリント	
30	1	1年のまとめ プリント	
コマ数合計	15		

年間授業進度計画予定表

No.

(1)	教科名	調理実習(日本)
(2)	対象学年	1年
(3)	対象学科	シェフ学科、健康給食学科、カフェ学科
(4)	テキスト・教材	プリント配布

(5)	年間規定時間数	100H
(6)	週あたり時間数予定	3H
(7)	到達目標	基礎的な調理技術の習得
(8)	評価方法	前期・後期筆記試験、及び実技試験での評価(90%) 授業への取り組み (10%)

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	3	機材説明、コックコートの着方、包丁について、 お機の構成、1番だし、2番だし	包丁の構造、用途、包丁の持ち方 出汁の引き方、使用法、扱い方
2	3	包丁研ぎ(薄刃) 砥石について、研ぎ方、手入れの仕方	包丁の持ち方、手入れの仕方 砥石の持ち方、扱い方
3	3	包丁研ぎ(柳刃) 砥石について、研ぎ方、手入れの仕方	包丁の持ち方、手入れの仕方 砥石の持ち方、扱い方
4	3	包丁研ぎ(出刃) 砥石について、研ぎ方、手入れの仕方	包丁の持ち方、手入れの仕方 砥石の持ち方、扱い方
5	3	味噌汁、大根の炒め煮、大根サラダ 大根の桂剥き	味噌汁の作り方、大根の炒め煮、大根の桂剥き 大根の桂剥きの仕方
6	3	大根のかつら剥き(復習) 基本の野菜の切り方を覚える	大根のかつら剥きの仕方 基本の野菜の切り方
7	3	沢煮椀 かつら剥き(復習)	沢煮椀の作り方 かつら剥きの仕方
8	3	玉子焼き(出汁巻き玉子) 錦野菜・胡麻酢	玉子焼きの作り方、出汁の巻き方 錦野菜の切り方、胡麻酢の作り方
9	3	親子丼 鰻元のピーナッツ和え、鰻汁	親子丼の作り方 鰻元のピーナッツ和え、鰻汁の作り方
10	3	鰻の三枚卸し、アジフライ キャベツの千切り パン粉の付け方、油の温度を覚える	鰻の三枚卸しの仕方 アジフライの作り方、パン粉の付け方、油の温度
11	3	鰻の三枚卸し、復習 蒲焼丼、ぶるん木耳豆腐	鰻の三枚卸しの仕方 蒲焼丼の作り方、ぶるん木耳豆腐の作り方
12	3	鰻のホイロ焼き、鰻たたき 梅ゼリー	鰻のホイロ焼きの仕方 鰻たたきの作り方、梅ゼリーの作り方
13	3	烏賊の酢の物 曙和え	烏賊の酢の物の作り方 曙和えの作り方
14	3	鰻のたたき	鰻のたたきの作り方
15	3	試験練習 鰻のタレカツ・チキンカツ(昼食として)	鰻のタレカツ、チキンカツの作り方
16	3	試験練習 鰻茶漬け、なめ豆卸し、大根サラダ(昼食として)	鰻茶漬け、なめ豆卸し、大根サラダの作り方
17	3	前期実技試験	前期実技試験
コマ数合計	51		

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
18	3	土鍋御飯 水菓子(梨) 丸茄子のそぼろ揚げ、蟹味噌	土鍋御飯の作り方 水菓子(梨)の作り方 丸茄子のそぼろ揚げ、蟹味噌の作り方
19	3	秋刀魚の肝焼き 秋刀魚煮和え	秋刀魚の肝焼きの作り方 秋刀魚煮和えの作り方
20	3	松茸土瓶蒸し 松茸御飯 鰻餅	松茸土瓶蒸しの作り方 松茸御飯の作り方 鰻餅の作り方
21	3	鯖の煮おろし 船場汁	鯖の煮おろしの作り方 船場汁の作り方
22	3	晩秋の前菜 栗ごはん	晩秋の前菜の作り方 栗ごはんの作り方
23	3	鰻の南蛮揚げ、豆腐白玉だんご 芋煮(六方剥き、梅人蔘)	鰻の南蛮揚げの作り方 豆腐白玉だんごの作り方 芋煮(六方剥き、梅人蔘)の作り方
24	3	炊き合わせ かつらむき、(ホタテサラダ) 鶏の竜田揚げ	炊き合わせの作り方 かつらむき、(ホタテサラダ) 鶏の竜田揚げの作り方
25	3	天婦羅盛り合わせ 牛肉の松前サラダ	天婦羅盛り合わせの作り方 牛肉の松前サラダの作り方
26	3	鶏の磯焼き 海老の雲仕立て	鶏の磯焼きの作り方 海老の雲仕立ての作り方
27	3	鴨治郎煮、茶碗蒸し しらすごはん、水菓子 ラ・フランス	鴨治郎煮の作り方 茶碗蒸しの作り方 しらすごはん、水菓子 ラ・フランスの作り方
28	3	お節料理 雑煮	お節料理の作り方 雑煮の作り方
29	3	外部講師による特別授業	外部講師による特別授業
30	3	寄せ鍋 雑炊	寄せ鍋の作り方 雑炊の作り方
31	3	すし特別授業 握りずし、軍艦、巻物2種を覚える。	すし特別授業 握りずし、軍艦、巻物2種の作り方
32	3	後期実技試験練習 お作り三種盛り のっぺ	後期実技試験練習 お作り三種盛り のっぺの作り方
33	4	後期実技試験	後期実技試験
コマ数合計	49		

年間授業進度計画予定表

No.

(1)	教科名	調理実習（西洋）
(2)	対象学年	1年
(3)	対象学科	シェフ学科・健康給食学科・カフェ学科
(4)	テキスト・教材	レシピのプリントを配布

(5)	年間規定時間数	100H
(6)	週あたり時間数予定	3H
(7)	到達目標	基礎的な調理技術の習得
(8)	評価方法	前期・後期筆記試験、及び実技試験での評価(90%) 授業への取り組み(10%)

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	3	ハサップの説明・西洋料理とは・器具の説明・掃除の仕方	
2	3	サラダスティック・マヨネーズ	乳化について 野菜を切る
3	3	野菜スープ・ブラウニー	ペイザンヌの切り方 スチコンの使い方
4	3	ミートソース	みじん切りの切り方
5	3	ハンバーグステーキ・人参のグラッセ	玉ねぎのみじん切り 人参のシャトー
6	3	包丁研ぎ	包丁の研ぎ方
7	3	ポークカツレツ・キャベツの千切り	パン粉のつけ方 キャベツの千切り
8	3	エビドリア・温野菜のサラダ	ベシャメルソースのつくり方 野菜の茹で方
9	3	ポテトコロッケ・チュイル	玉ねぎのみじん切り パン粉のつけ方
10	3	鶏もも肉の田舎風煮込み・ハニーブレンチトースト	鶏肉のおろし方
11	3	ポーチドエッグのグラタン・ツナのカレーピラフ	ウフボッシュェのつくり方 米の炊き方
12	3	白身魚のディグレレ風・ショールゾンオボム	ソースを作る（白ワインを減 らすの系） パイ生地のおろし方
13	3	包丁研ぎ・クレープ・カスタードクリーム	クレープを焼く カスタードをたく
14	3	フルーツゼリー・前期実技試験練習① （人参のシャトー・玉ねぎのみじん切り・キャベツの千切り）	ゼラチンの増減と凝固について
15	3	前期実技試験練習②（人参のシャトー・玉ねぎのみじん切り・キャベツの千切り）	筆記試験の確認 実技試験達成度の確認
16	3	模擬試験（人参のシャトー・玉ねぎのみじん切り・キャベツの千切り）	筆記試験の確認 実技試験達成度の確認
17	3	前期実技試験（人参のシャトー・玉ねぎのみじん切り・キャベツの千切り）	
コマ数 合計	51		

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
18	3	小エビのオーロラソース・若鶏のシャールソース	トマトのスライスを正確に切る 鶏のおろし方
19	3	クラムチャウダー・若鶏のパン粉焼き	鶏のおろし方
20	3	ミートローフ・魚介類のパニエ	みじん切りの練習
21	3	オムレツ・じゃがいものシャトー・マッシュルームのトゥルネ・パウンドケーキ	試験練習
22	3	若鶏のフリカッセ・ガトーショコラ	鶏肉のおろし方 ガトーの焼き加減
23	3	鶏もも肉のパロディヌ・人参のサラダ・パバロア	鶏肉のおろし方 ゼラチンの凝固
24	3	かぼちゃのパイ包みスープ・サーモンのムニエル・オムレツ練習	ムニエルの焼き方 オムレツ練習
25	3	オニオングラタンスープ・若鶏のマスタード風味・パートシュクレ生地作り	鶏肉のおろし方
26	3	ホタテのヴィネグレットソース・フルーツタルト	タルトの焼き方
27	3	シャルロットポワール	パバロアの復習
28	3	豚フィレ肉の粒マスタードソース・シューベニエ	シュー生地作り
29	3	特別講師授業	
30	3	チーズケーキ・後期期末試験練習① （じゃがいものシャトー・人参のジュリエヌ・マッシュルームのトゥルネ・オムレツ）	オープンの手配
31	3	後期期末試験練習② （じゃがいものシャトー・人参のジュリエヌ・マッシュルームのトゥルネ・オムレツ）	筆記試験の確認 実技試験達成度の確認
32	3	後期期末試験模擬試験 （じゃがいものシャトー・人参のジュリエヌ・マッシュルームのトゥルネ・オムレツ）	筆記試験の確認 実技試験達成度の確認
33	4	後期実技試験 （じゃがいものシャトー・人参のジュリエヌ・マッシュルームのトゥルネ・オムレツ）	
コマ数 合計	49		

年間授業進度計画予定表

No. _____

(1)	教科名	調理実習（中国）
(2)	対象学年	1年
(3)	対象学科	ⅡI学科 健康給食学科 ⅡI学科
(4)	テキスト・教材	プリント配布

(5)	年間規定時間数	100H
(6)	週あたり時間数予定	3H
(7)	到達目標	基本的な各種切り方と中華鍋を使い仕上げる事、調理に必要な基本的中国語を修得する。
(8)	評価方法	各期末試験考查によって評価100%

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	3	包丁の使い方 野菜の切りかた 器具の説明	実習の流れ 実習台の使い方
2	3	包丁の研ぎ方 野菜のきり方（糸、片、丁）	左右に対しての包丁の角度の確認 包丁の動かしかた。
3	3	点心について （点心の種類と料理の中の定食）	皮の成型、包み方。 茹で方など
4	3	湯の採り方 湯を使つてのタンメン （材料となる骨の下処理、濁りを出さないための注意点）	湯底確認 香味野菜の使い方と役割を知る。
5	3	鍋の熾り方指導 チャーハン （揃み方、熾り方）	お玉と鍋の運動とした動かしかたの指導
6	3	煎の指導 五目焼きそば （蒸籠を作り焼き上げる）	鍋を動かして麺を両面焼く。 トロミの付けかた指導
7	3	豚肉を使つての調理 青椒肉糸 （包丁の動かしかた、繊維の見分け方）	同じ太さにカット。 鍋の熾り方。
8	3	炒菜を知る。 （魚香茄子、炒飯）	油の湯底確認。 香味野菜の使い方使い方。
9	3	種菜を知る。 （タンタン麺、タレの作成、各種野菜のきり方）	胡麻タレの作り方 糸切りの仕方
10	3	炸菜を知る。 油淋鶏 （鶏肉を揚げる、下味の付けかた。）	下味、鹽、油湯底の把握 レモンの飾りきり。
11	3	煮込みと蒸し物の学習 麻婆豆腐 （煮込みの火加減と加熱の仕方の学習）	豆腐の水分の抜き方 大根の揚げ具合色での判断
12	3	点心学習 鍋貼餃子 （グルテンのはたらきを知る。）	なぜ粘りが出るのかを知る。 包み方、焼き方
13	3	中華定番料理の学習 （蝦のチリソース、杏仁豆腐）	蝦の下処理学習。 ゼラチンの使い方学習
14	3	炸菜を知る。 香酥鶏 （雞腿の骨のはずし方、下味の付けかた）	骨に肉を付けずにはずす。 塩の加減の把握。
15	3	前期 試験対策 炒飯作成 胡瓜の細切り、菊切り 以上2課題	制限時間内に終了することと 長さ、太さ、高さ等をチェック
16	3	前期 試験対策 炒飯作成 胡瓜の細切り、菊切り 以上2課題	制限時間内に終了することと 長さ、太さ、高さ等をチェック
17	3	前期 試験 炒飯作成 胡瓜の細切り、菊切り 以上2課題	制限時間内に終了することと 長さ、太さ、高さ等をチェック
コマ数 合計	51		

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
18	3	家常菜の学習 （家常豆腐、生煎包子）	豆腐の揚げ加減、温度の学習 包む方と熾き方を学習
19	3	卵料理の学習、北京の麵料理 （火の入れ加減、熾り方）炸醬麵	加熱の仕方を見る。 胡瓜の千切り、炸醬肉の作り方
20	3	盛り付けの演出 （芋のバスケット作成）	芋の灰汁の抜き方 トマトの飾り、胡瓜の「飾り
21	3	チャーハン作成 （鍋の熾り方の練習）	お玉の使い方 味の付けかた
22	3	飾切りの練習 野菜彫刻	ナイフの使い方
23	3	点心学習 各種粉を使った点心（芝麻球、水餃子、他）	熾り方の練習
24	3	鶏の骨はずし方学習 ばらした肉で調理学習	部位のはずし方を修得する。
25	3	種菜学習 手打ち麺	水分の調整 練り方と伸ばし方の修得
26	3	各種切り方の学習 細切り、さいの目切り、薄きり等	指定した形に切る。
27	3	チャーハン作成 （鍋の熾り方の練習）	お玉の使い方 味の付けかた
28	3	蒸菜学習（甜点心、鹹点心） （馬拉糕 豆皮捲他）	材料についての説明
29	3	チャーハン作成 （鍋の熾り方の練習）	お玉の使い方 味の付けかた
30	3	炸菜（揚げ物料理）学習 百花蟹手 軟炸鶏	鶏肉部位の切り方、 麵の付け方と揚げ方
31	3	後期試験対策 蛋皮（直径20cm以上）じゃが芋、ピーマンでの細切り	規定の範囲内で評価指導
32	3	後期試験対策 蛋皮（直径20cm以上）じゃが芋、ピーマンでの細切り	規定の範囲内で評価指導
33	4	後期試験 蛋皮（直径20cm以上）じゃが芋、ピーマンでの細切り	規定の範囲内で評価指導
コマ数 合計	49		

年間授業進度計画予定表

No. _____

(1)	教科名	総合調理実習
(2)	対象学年	1年
(3)	対象学科	シェフ学科・健康給食学科・カフェ学科
(4)	テキスト・教材	総合調理実習（集団給食実習）及びプリント配布

(5)	年間規定時間数	90H
(6)	週あたり時間数予定	4H（集団給食実習）14H/7H（食育実習）9H/8H（料理作品制作）
(7)	到達目標	集団調理の衛生面や大量調理機器を使用し調理方法を学ぶ。 食育実習を通して食の大切さを学び、器用、華やか、清潔で機能的におもてなしの心を学ぶ。
(8)	評価方法	前期・後期筆記試験、及び実技試験での評価(90%) 授業への取り組み（10%）

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	4	機材説明、コックコートの仕方、包丁について、	実習室の使い方 給食施設、記録について
2	4	カレーライス、汁物、副菜	回転釜を使用して 食中毒、異物混入
3	4	ハヤシライス、汁物、副菜	回転釜を使用して 事故・怪我について
4	4	5色丼、汁物、副菜	ティルティングパン使用して HACCP、ISO
5	4	ビビンバ丼、汁物、副菜	ティルティングパン使用して 大量調理・真空調理
6	4	親子丼、汁物、副菜	スチームコンベクション使用 栄養・添加物
7	4	鯖味噌煮、汁物、副菜	スチームコンベクション使用 サービスについて
8	4	八宝菜、汁物、副菜	大量調理機応用 店舗開店について
9	4	鮭フライ、汁物、副菜	大量調理機応用 リーダーについて
10	4	パスタ、汁物、副菜	大量調理機応用 お金について
11	4	クリーム煮、副菜、デザート	大量調理機応用 計算問題
12	1	実技試験	大量調理機応用 計算問題
コマ数 合計	45		

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
13	14	食育実習	田植え実習
14	7	食育実習	ロゼリ
15	7	食育実習	掃刈り
16	9	料理作品作成	展示料理作品作成計画 作品制作
17	8	料理作品作成	
コマ数 合計	45		

年間授業進度計画予定表

No. _____

(1)	教科名	健康福祉料理実習
(2)	対象学年	2年
(3)	対象学科	健康給食学科
(4)	テキスト・教材	授業用作成プリント

(5)	年間規定時間数	300H
(6)	週あたり時間数予定	12H
(7)	到達目標	衛生面を最大限に注意し手順の良い作業が出来る様になる。 材料の切り揃え、同じ皿で盛り付けられる技術の習得+差別化した「コト」が作れる様になる
(8)	評価方法	前後期実技試験(指定課題テスト20%・実習態度10%・実技・筆記試験70%)

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	12	給食事業の目的・衛生的に作業する事とはどのような作業かを知る 調理器具・器具の取り扱い方法/汚染区域と非汚染区域の区別の意味を知る/導線図の意味を知る	材料の切り揃え 調理器具・器具の取り扱い方
2	12	給食事業の目的・衛生的に作業する事とはどのような作業かを知る 調理器具・器具の取り扱い方法/汚染区域と非汚染区域の区別の意味を知る/導線図の動き方を知る	材料の切り揃え 調理器具・器具の取り扱い方
3	12	食材(材料)を切り揃える事がなぜ必要なのかを知る 検品・下処理作業・上処理作業・調理作業・配膳と人員配置される形態を知る	材料の切り揃え 衛生的な作業
4	12	食材(材料)を切り揃える事がなぜ必要なのかを知る 検品・下処理作業・上処理作業・調理作業・配膳と人員配置される形態を実践する	材料の切り揃え 形態を知る
5	12	干物戻し率をマスターする。(実習で戻し方をマスターする) 事業所給食事業の実際の給食献立作成(4)&保育園事業給食作成(1)	材料の切り揃え 形態を知る
6	12	食中毒予防3項目を給食調理で実践する事の理解 介護給食事業の実際の給食献立作成(1)&刻み食・ムース食作成	材料の切り揃え 食中毒予防
7	12	食材(材料)を切り揃え方を知る 主菜・副菜A・副菜B・ご飯(スープ&味噌汁)の部署に別人員配置される形態を知る	材料の切り揃え 調理方法の理解
8	12	決まった売り上げの中で、如何に効率良く作業を分担し少しでも少ない人数で作業しなければならぬかを知る/タイムテーブルを作成する意味を知り、決められた時間厳守を知る	材料の切り揃え 作業効率を知る
9	12	食材(泥付きか輪切か等)によって納品からカット(上処理作業)までライン (非汚染区域)が決めてられていて、ラインに沿って人員配置される形態が有る事を知る。	材料の切り揃え ラインを知る
10	12	切り出し作業・調理作業の手順の良さの習得・スピード習得は重要で有る事を知る 事業所給食事業の実際の給食献立作成(1)&刻み食・ムース食作成	材料の切り揃え 手順の良さを知る
11	12	新潟県産野菜コンテスト競技 実践教育	
12	12	健康面を重視した調理工程・調理法を行なっている施設と集団調理の調理工程・ 調理法を行なっている施設が有る。	材料の切り揃え 違いを理解する
13	12	献立指示書の見方を知る 事業所給食事業の実際の給食献立作成(2)&刻み食・ムース食作成	材料の切り揃え 献立表の見方
14	12	野菜等水分の多い物(漬物等)は加熱調理も含め、2割位規定分量よりも少なくなる。また 煮物加熱調理の際の煮汁分量は製作者人数が増える毎に若干少なくする必要が有る事を知る	材料の切り揃え 調理方法の理解
15	12	加熱調理後、盛り付ける食材の計量し、献立表通りの1人前の分量分材料がある確認する 必要がある事を知る	材料の切り揃え 献立表の確認の仕方
コマ数 合計	180		

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
16	12	学校行事(NSG)フェスタ仕込み 実践教育	
17	12	前期期末実技試験対策練習 評価試験	
18	12	前期期末実技試験 評価試験	
19	12	明和個人祭販売 実践教育	
20	12	2段階調理を行い加熱を抑える調理作業を理解する(1) 作業後に使用する器具を用意してから作業に入る効率を考えた作業の理解(1)	材料の切り揃え 干物戻し率
21	12	食材別のドリップの切り方をマスターする。 学校給食事業の実際の給食献立作成(1)	材料の切り揃え ドリップの切り方
22	12	給食施設における5Sのマスター(整理・清潔・整頓・清掃・検(しつけ) 病院医療給食事業の実際の給食献立作成(1)&刻み食・ムース食作成	
23	12	ハサップに沿った給食調理作業手順を理解する 病院医療給食事業の実際の給食献立作成(2)&刻み食・ムース食作成	
24	12	給での調理工程をスチームコンベクションで行う調理方法を理解する(1) 介護給食事業の実際の給食献立作成(2)&刻み食・ムース食作成	
25	12	作業効率を考え、決められた時間内で作業出来る様になる作業手順を理解する 主菜・副菜A・副菜B・デザート・汁物・炊き込みご飯作成献立の調理実習(1)	
コマ数 合計	120		

年間授業進度計画予定表

No.

(1)	教 科 名	創作料理実習
(2)	対 象 学 年	2年
(3)	対 象 学 科	シェフ学科・健康給食学科
(4)	テ キ ス ト ・ 教 材	プリント配布

(5)	年間規定時間数	30h
(6)	週あたり時間数予定	3h(前期、または後期)
(7)	到達目標	自ら料理の創作ができるようになる。盛り付け、食材の組み合わせなどを学ぶ。
(8)	評価方法	履修終了時の実技試験、及びコンテスト応募作品（90％）授業への取り組み（10％）

予 定		
回数	コマ数	指導内容 ・ 実習内容 指導ポイント
1	3	ハンバーガー・フライドポテト パンズの作り方 サンドする具材について
2	3	チキンチリソース・ジンジャークッキー・てりやきバーガー・レタスチャーハン パンズ復習
3	3	ホットドック・焼きそばパン・卵パン・ツナマヨパン・コロッケパン レンコンサラダ・クッキー・チーズドック コッペパンの作り方
4	3	餡子コッペパン・デニッシュ8種類 豆腐サラダ コッペパンの復習
5	3	チー1グランプリ作品（2Aクラス） キーマカレー・海老カツバーガー（2Bクラス） チーズと鶏手料理のレシピ作成
6	3	ツナマヨコーンのちぎりパン キーマカレー・ナン・バナナブレッド パンの形を覚える
7	3	ベーコンとオニオンのちぎりパン 餃子ドック・黒酢そばラタトゥイユのせ 黒酢を使ったアイデア料理
8	3	豆腐バーガー・ビスコッティ カルローズレシビコンテスト考案（2Aクラス） ヘルシー料理の提案
9	3	カルローズレシビコンテスト（2Aクラス） 和風ピザ作り（2Bクラス） ピザの具材を考案する
10	3	カレーパン・揚げパン ジャージャーそうめん パンを揚げる
コマ数合計	30	

予 定				
回数	コマ数	指導内容 ・ 実習内容	指導ポイント	資料 (頁)
コマ数 合計	0			

年間授業進度計画予定表

No. _____

(1)	教科名	給食経営管理論
(2)	対象学年	2学年
(3)	対象学科	健康給食学科
(4)	テキスト・教材	給食経営管理論テキスト・配布プリント

(5)	年間規定時間数	30H
(6)	週あたり時間数予定	1H
(7)	到達目標	就職し現場に出ていく学生に現場レベルでの学問となっています。 現場ではただ料理を作るだけではなく料理を作る場所であったり給食組織についても知識として学ばなければならない。 より視野を広げた形で仕事ができるように授業を行い、学ばせる。
(8)	評価方法	前期・後期筆記試験での評価(90%) 授業への取り組み(10%)

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
1	1	第1章 給食の概念 A給食経営管理の概要	
2	1	B給食システム 第3章 給食の生産(調理)管理 A食材(食品)の流通と購買管理 ①食材量管理の目的 ②食材の流通システム	
3	1	③購入方法と検収	
4	1	④食材の保管・在庫管理 ⑤食材料管理の評価	
5	1	B 生産管理 ①生産管理の目標と目的 ②生産計画(調理工程、作業工程、生産ライン) ③大量調理の方法と技術	
6	1	3大量調理の方法・技術 4工程管理 5工程管理 6廃棄物処理	
7	1	7生産管理の評価 C安全・衛生管理 1安全・衛生管理の概要 2安全・衛生管理と関係法規 3飲食起因性の健康障害の概要	
8	1	3飲食起因性の健康障害の概要 4食品事故発生時の対応 5HACCP	
9	1	6給食関係従事者の健康・衛生管理 7食品の衛生管理	
10	1	8施設・設備の衛生 9衛生教育の方法 10安全・衛生管理の評価 第4章品質管理 A品質管理の目的 1品質の概念	
11	1	1品質の概念 2給食における「標準化」 3品質評価と改善	
12	1	第5章施設・設備管理 A施設・設備 1施設・設備管理の目的 2給食施設の立地条件 3面積 4レイアウト	
13	1	5環境関連設備 (1)施設・設備の設置 (2)施設・設備と関係法規 (3)施設・設備の構造 (4)食事環境整備の意識	
14	1	B機器 1機器(機械および器具)の選定 C什器・食器 D総合的な施設・設備管理	
15	1	B機器 1機器(機械および器具)の選定 試験対策	
16	1	答案用紙返却と解説 第7章事故・災害時対策 A事故対策 ①事故の種類	
17	1	②事故の状況把握と対応 B災害時対策 ①事故・災害時対応の組織と訓練	
コマ数 合計	17		

予 定			
回数	コマ数	指導内容・実習内容	指導ポイント
18	1	②災害時のための貯蔵と献立 副読本HACCPシステム I食品調理・加工の衛生 I一般衛生管理プログラム 1-1HACCPと一般衛生管理プログラム	
19	1	1-1HACCPと一般衛生管理プログラム	
20	1	1-2一般衛生管理プログラム 1施設設備の衛生管理 2従事者の衛生教育 3施設設備、機械機器の保守点検 4そ族昆虫の防除	
21	1	5使用水の衛生管理 6排水及び廃棄物の衛生管理 7従事者の衛生管理 8食品の衛生的な取扱い	
22	1	9製品(食品)の回収方法 10製品などの試験検査に用いる機械器具の保守点検 1-3衛生標準作業手順書 3HACCP的ノウハウの導入 3-1HACCP	
23	1	3-1HACCP 3-2HACCPの7原則12手順 3-2-1~3-2-6項目	
24	1	3-2-6~3-2-12項目 3-3HACCPプラン総括表 3-4加熱殺菌 3-4-1殺菌の考え方	
25	1	3-4-2野菜・果物の洗浄 3-5大量調理施設におけるHACCP手法の導入 3-5-1和え物 3-5-2焼き物	
26	1	3-5-1和え物	
27	1	3-5-2焼き物 3-5-3その他の加熱食品 3-5-4非加熱食品	
28	1	2衛生管理体制 2-1最高責任者の役割	
29	1	Ⅲ標準衛生管理作業手順書 Ⅳ重要管理事項	
30	1	試験対策	
コマ数 合計	13		